

多文化共生社会における日本語ボランティアの役割は—— TNVN第17回総会開かれる

東京日本語ボランティア・ネットワークは4月24日(土)第17回の総会を15団体18名の参加を得て開催しました。東京都の在住外国人登録者数が41万人と20年前の2倍に達し、着実に多文化社会へと進む状況のなかで日本語ボランティアが果たす役割と課題について意見交換をしました。

多文化社会における 日本語ボランティアの役割

1 求められている外国人への 生活情報の提供

—外国人意識調査から—

港、新宿、足立、練馬の4行政区では平成19年から在住外国人の意識調査を行っています。日常生活で不便を感じていることの回答では、ことば(日本語)の問題と物価が常に1、2位を占めています。こうした調査結果から今後も日本語による生活情報の提供、伝達の活動が期待されています。

2 外国人への行政情報の 効果的な提供、伝達を

各自治体(行政)は、外国人への生活情報として「生活ガイド集」や「防災リーフレット」等を提供しています。また東京都は先に災害、病気等緊急時に活用することのできるヘルプカードを発行しました。

行政から発信される情報は、ともすれば情報化(発行)したところで終り、有効に活用されないことがあります。また、内容についても受信者(外国人)の生活実態(感覚)とかけ離れていることもあります。さらに情報提供に使用されている言語は各自治体ともおおむ

ね日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語の4カ国語です。他の言語ももう少し増やすべきと考えます。

このように行政から発信されている情報について私たちボランティアは、外国人へのより効果的な情報の提供、伝達のあり方について、その都度検討を加えながら対応していく必要があります。

3 情報を有効に活用、使用するには 介在者(日本語ボランティア等)が必要

日本語ボランティアはこれまで、◎防災対策の資料収集と提供 ◎生活ガイド集(医療問診票等)の自治体との共同作成等を受信者の目線で行ってきました。

東京都のヘルプカードについても補正を加え、学習教材としても活用したり、使用言語についてもマイナー言語の語彙集を自らの活動のなかで作成しています。こうした活動の積み重ねが、外国人への効果的な情報の提供、伝達になると考えます。

外国人にとって 「分かりやすい日本語」とは

—阪神大震災が契機—

外国人への情報提供は、とりわけ緊急時に即応しなければなりません。現在、弘前大学をはじめ各方面で研究さ

れていますが、阪神大震災時に外国人にどの言語での情報が必要か、との調査を行ったところ ①自分の母国語で、②分かりやすい日本語で、との回答がありました。

日本語は同じような単語・語彙が多いので、震災時等に際しては時系列的に簡易にセンテンスを短く、同じ単語を使用する必要があります。そのためには、どのような日本語が必要か、行政主導で日本語教育機関や団体が、生活に最低限必要なことばを選び出し、教材を作成、習得を支援することが必要と考えます。

TNVNでは3年後に迎える設立20周年をめざして、本年より「分かりやすい日本語」の検討作業に入ります。是非ご協力を下さい。

意見交換会まとめ 岩佐幹彦

【総会出席団体】

●江戸川平井にほんごサークル(江戸川区) ●小平日本語ボランティアの会(小平市) ●社会福祉法人さばうと21(品川区) ●初歩日本語(練馬区) ●杉並日本語の会(杉並区) ●特活法人日本語検定委員会 ●日本語学習市場(台東区) ●光が丘やさしい日本語(練馬区) ●東久留米にほんごクラス(東久留米市) ●ピバ日本語教室(港区) ●町田日本語の会(町田市) ●まちだ地域国際交流協会(町田市) ●町田にほんごスクールネット(町田市) ●やさしい日本語(江東区) ●早稲田奉仕園日本語ボランティアの会(新宿区)

国際化市民フォーラムに 参加して

寄稿

代表 松田 有為子

LTC友の会・阿佐ヶ谷



急増する在住外国人の現状に対し、日本語の支援を行政がする体制、民間ボランティアができる限度、そして日本語学校の役割と非常に意義のあるお話を聞かせていただきました。

私もこの世界に18年関わってまいりましたが、フォーラムに参加し、改めて考えさせられることが多々あり、自分なりに考えを整理する機会を持つことができました。

現実、日本に住む外国人の中には言語、経済的な面を含めすべて恵まれた環境の中にいる外国人から、経済的余裕もない上、言葉が解せず閉ざされた小さな世界にストレスとともにうずくまる外国人も万といるということです。同じ地域の住民としてこれは大きい社会問題ととらえています。

行政が設けている外国人相談窓口以外に、共生する住民として本来ならば行政が言語支援を真摯に取り組むべきことと思いますが、とにかく走り出した当「LTC友の会」ボランティア教室です。当初は会場を放浪していましたが、杉並区交流協会にフロアを提供していただき、何よりもありがたく試行錯誤しながら歩んでまいりました。

できるだけ同じ学習者が、同じシステムの教室（阿佐ヶ谷）の中で学習できるチャンスをと週三回設けていますが、参加希望者が多く、昨年末より高井戸にも分室を開設しました。ここも学校開放の時間帯に無料で使用させていただいております。お話を聞きした練馬区だけではないと思いますが、多くのボランティア教室は会場問題で悩んでおられることにおいては当会は恵まれていると思います。

ただ決して広くはなく、もっとも学習を必要としている幼児や子供連れはお断り、また児童への支援もお断りしています。出産するとやめなければならない当会の事情は、今回フォーラムに参加

して何か片手落ちをしているような重い気持ちになりました。

杉並区は長年「杉並区国際交流協会」だったのですが、一時財団法人に、最近は「杉並区交流協会」となり その役目は我々にとって多くを望めません。三鷹市、武蔵野市、調布市など行政が強力に取り組んでいることはすばらしいことです。

当会はまだまだ限られた外国人ですが、通ってくる外国人にとって日本語を学ぶ場であり、そして楽しい場であり、気持ちの安らぐオアシスであり続けることに最大限の努力をしております。

人間は誰でも一生涯学ぶことを忘れてはならないように、特に当会に多い日本人を配偶者に持つ外国人学習者が言語習得を通して日本社会に共生していくための多くの勉強に終わりはありません。10年以上通っている外国人が何人かいますが、そのような学習者と、まずは日常会話を習得していきたい学習者と二通りが見えます。これらを見据え、外国人のすべての現状に対応することは不可能ですが、片手落ちでも続けることに意義があると私なりに結論を出しました。

30人ほどのボランティアがグループレッスン、マンツーマンレッスンと週何回も掛け持ちで活動に参加し、外国人を友だち、家族のように受け入れ、そして運営にも協力してくれています。何よりもなによりもボランティアの方々が財産であり、その情熱に日々感謝しております。オーガナイズする私も手一杯でなかなか外に目を向ける時間の余裕がありませんが、今回、フォーラムで得た多くの知識、情報を生かして末永く日本語支援活動を続けたいと思っております。

国際化市民フォーラム：2010年2月20日（土）
東京ウイメンズプラザ（渋谷区）
東京都国際交流委員会 国際交流・協力TOKYO連絡会主催

「チャレンジ授業」 課外授業は

やさしい日本語（江東区）

「やさしい日本語（江東）」の2009年度「課外授業」は、「茶道お点前体験授業」と「習字教室」。どちらも「その道の先生」を迎えて開かれました。

「お点前体験授業」は、学習者が自ら作った「お菓子」でお茶をいただくという趣向です。作ったお菓子は「雲平糖」と「落雁」の2種類。お茶の先生の頭の中には、「この型はこの色で」という決まりがあるようでしたが、学習者には学習者のこだわり（?）がありました。「決まり」対「こだわり」の駆け引きは、お茶の先生の「まあ、楽しい（!）お菓子になりましたね」の明るい一言で片付きました。

お菓子の準備も出来たところで、いよいよお点前です。この日のためにお茶の先生が選んだ掛け軸、花、香合をしつらえたお茶室に入り、正客役の先生にお作法を教わり、手作りのお菓子でお茶をいただきました。恐る恐る一口飲んだ学習者の「おいし〜い」。この一言でお茶の先生方も私たち日本語教師も今までの緊張が解けました。

最後は自ら点てたお茶をいただきました。お茶碗に抹茶とお湯を入れ、茶せんを振るのですが、なかなかうまくいきません。お茶の先生に手首の力の入れ方やコツを教わりながらお点前に



チャレンジです。先生方のつぼを押さえた指導で、満足いくお茶が点てられました。ある学習者は、一緒に参加した娘（2歳）に一服たてました。お茶を飲み干した娘は、日本語で一声「ママ、おかわり」。

第2回課外授業は「習字教室」。小学校で使っている習字セットを持ち寄りました。

まだ漢字の読み書きが出来ない学習者もお手本を選んでチャレンジです。最初は小さな字を半紙の隅っこに書いていた学習者も、書道の先生に朱で花丸をもらったり、少し直してもらったりすると、みるみる上達していきます。はじめは弱々しかった字にメリハリ



がつき、力があふれ、表現力が出てくるようになる過程はまさにマジックを見るようでした。

最後は扇子に、練習した字を書きました。何枚も練習したとは言え、やはり緊張します。おもむろに筆に墨を含ませ、ゆっくり扇子に筆を近づけます。一瞬、世界中の音が消え、ピーンとした空気が学習者一人ひとりを包みました。その後は一気に書き上げると、あちこちから満足気な声が上がりました。自分の名前を書き入れて（中には名前のほうが大きい人も…）、先生が用意した落款を押すと立派な作品になりました。

今回、協力して下さった先生方のどなたのところでも手を抜かないプロの心意気……お茶や書道で使う道具類の準備から体験教室の進め方、学習者たちの反応を的確につかみながら過度に緊張させず飽きさせず……に私たちも学ぶところが多かった課外授業でした。

（松川彩子）





ZOOM IN

調布市国際交流協会 (CIFA)

— 市民一人ひとりが担い手となる国際交流の場 —

調布市国際交流協会 (CIFA) を訪れたのは2010年4月20日、国際化市民フォーラム in TOKYO※「多文化共生のまちづくりに向けて」の分科会「日本語学習支援の広がり」で調布市国際交流協会 (以下：CIFA) の増澤事務局長からCIFAの日本語教室活動についての報告があり、その活動の様子を是非現地で伺いたく出向きました。

調布市は東京都のほぼ中央にあり、面積はその約1%、人口22万人で外国人登録は4千人、武蔵野の緑とおいしい水・文化とスポーツでふれあいのまちづくりが特徴。

CIFAは調布駅南口から歩いて5分足らずの「文化会館たづくり」9階にあります。

今回の取材では事務局長の他、中心となって日本語ボランティア活動をされている4人のボランティア (大和さん、寺田さん、大場さん、佐久間さん) にもお会いし、日本語学習の状況を直接お聞きしました。

CIFAのパンフレットに「市民の皆さん一人ひとりが担い手となり国際交流を進める場として、1994年11月に設立された団体」と記され、ボランティア活動が日本語教室の生い立ちからこれまでの広がりの中で発展し、CIFAは調布市と関係団体等との連携を進め、調布市の施設・建物の活用に調整機能を果たし、活発な市民活動を運営の面で下支えしているのを感じました。

CIFAでは①日本語会話教室 ②調布市立学校日本語指導教室 ③子育て中の親の日本語教室 ④外国人の生活相談 ⑤国際交流サロン ⑥広報誌「こ

んにちはちょうふ」の発行 ⑦文化・スポーツを通じての交流 ⑧ボランティア会員が行う自主事業への援助 ⑨国際交流団体の事業への支援等、9活動があります。

CIFAの会員はCIFAの趣旨・目的に賛同する個人で、2010年2月では日本人243人、外国人209人となり、CIFAは市の補助金などを得て運営されているそうです。

「日本語会話教室」は1994年11月にCIFAが設立され、ボランティアによる国際交流サロンの交流の中から、日本語を学びたいとの希望から翌年1996年3月に「日本語会話教室」が事業としてスタート。内容は入門レベルから入り、いろいろな学習希望に応え、更に学習者へのアンケートから好きな時に勉強をしたいとの希望を受け、時間帯・曜日が次第に広がりました。

現在は月～土曜日まで朝から夜まで、7つの時間帯 (火・土は夜の時間帯はなし) となり、事務局には、学習者とボランティアの名前が書かれたステッカーが壁のボードに所狭しと埋められていました。現在学習者は約200人で学生が1/3とのこと。

教室はパーティションで7つに分け、マンツーマンで行われています。多い時はロビーを使うそうです。

「調布市立学校日本語指導教室」は、CIFAの独自事業として開いたが、現在は調布市教育委員会からの受託で、場所は調布市教育会館研修室で、日本語の使用および理解に困

難な児童・生徒を対象にボランティアが日本語や教科の指導を、水曜日15:00～17:00、土曜日10:00～12:00に開き、小中学生30名ほどの子ども達が来るそうです。

「子育て中の親の日本語教室 (だっこらっこくらぶ)」も子育て中の人から日本語学習の希望があり、行政の協力で調布市子ども家庭支援センター「すこやか」(子育てに関する総合施設と様々な機能) の会議室が使用出来、昨年 (2009年) の9月からスタート、現在学習者9人その子ども10人で日本語の学習と併せ、子育て情報や親子の仲間づくりの支援をボランティアが行っているそうです。

CIFAの日本語学習支援は日本語を学習したい人の求めに応じて、順次 成人 (社会人、学生など) → 小中学生 → 子育て中の親と 学習支援の場が広がっています。これは学習者を想定して教室を作り、学習希望者を募集するのは異なっています。

(文責：梶村、同行：岩佐)

※2010年2月20日 (土) 東京ウィメンズプラザ (渋谷区) 東京都国際交流委員会 国際交流・協力TOKYO連絡会主催



メキシコ文化と食文化

アルキメデス
(メキシコ) 町田日本語の会

私はアルキメデスと申します。メキシコから来ました。

メキシコは古代文化と優しい人々、そしておいしい食べ物や飲み物で、有名な国で、温暖な気候です。

北アメリカに位置して、北にアメリカ合衆国と南東にグアテマラと国境を接しています。

私が日本に来たストーリーとメキシコの食文化を話したいと思います。

電信系の仕事をしながら、世界中を旅して、ワインや食べ物を愛好し、作家でもあった私の祖父は、50年前に日本へ旅行に来て、乗った飛行機の中で見た美しい盆栽に感動しました。見たことない、声が聞いたことない、電信だけで連絡していた祖父の友人は日

本の文化と食事を祖父に紹介してくれました。その友達から、祖父は日本のことを心から愛好になりました。

私はこの独特な面白い日本の事を祖父から聞き、8年前にコンピュータ工学の大学院と博士の学位を取るために、日本に来ました。

私も食べる事が好きで、日本、インド、イタリアン、中華料理などが好きです。もちろん一番好きなのは、メキシコ料理です。

メキシコ料理はトウモロコシ、豆、チリ、チョコレートなどのアメリカインディアンの食品とチーズ、豚肉、鶏などの欧州食品の組み合わせで作ります。その中で、タコスとエンチラーダは最も人気のある料理です。

又、飲み物も世界的に最も有名なのは、テキーラです。

サボテンの仲間のアガベを発酵させて作る強いお酒です。アガベは高さ1500m位の特別の場所にあります。

サボテンはコウモリの受粉によって増えていきます。



テキーラは本当に美味しいお酒ですけど飲み過ぎると危ないです。

私のはじめてテキーラを飲んで三日間酔っぱらいました。すごく強い酒です。

その理由はテキーラはサボテンからつくります。むかしからアステカ人にとってサボテンからマジックパワーをもらいます。

テキーラの作り方を教えましょう。

アガベをパイナップルのように切ります。オープンで48時間やきます。たるの中に入れて待ちます。2ヶ月たつと白いのが出てきます。余りおいしくないです。

1年たつとウイスキーみたいなテキーラが出来ます。私は一番好きです。

2年たつと古くなって、強くなります。私はあまり好きじゃないです。

伝統的な料理のワカモーレはメキシコのアボカドサラダで、家族や友達に喜びをもたらすと思います。

たまねぎ1個、ライム1個、トマト1個と香菜1袋を使い、作りますが、普段はディップとして、トルティーヤやチップスと一緒に食べますが、ビーフやチキンステーキなどと一緒に食べてもおいしいです。

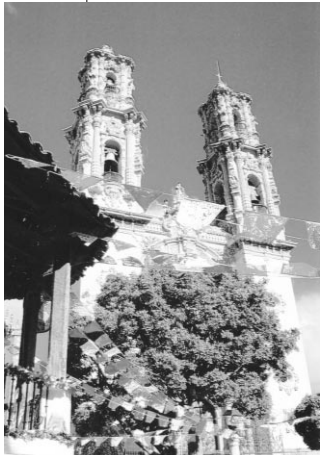
私の好きな日本の飲み物は甘酒です。

今、私は日本で仕事をして、日本語を勉強しています。

山登りが好きで、1ヶ月に1回くらい登っています。

皆さん、私のエッセイをご覧になって、ありがとうございます。

グラシアス



助けられたり、助けたり

グループあだち

宮崎 黎子（足立区）

足立区には、いま17の日本語ボランティアグループがありますが、グループあだちは区内10番目の日本語ボランティアグループとして、2003年4月に発足しました。

足立区主催の日本語ボランティア養成講座を修了した有志によって、結成されたのですが、その講座の核は「日本語を教える」のではなく、「日本語で伝える」ということでした。そのメッセージはボランティア精神の根っこをしっかりと私たちボランティアの心に刻む役目を果たしてくれたと思います。ただし、日本語で伝える難しさに、各人各様に悪戦苦闘し、工夫を重ねています。

発足以来7年、学習者は延べ900人、ボランティアも40人が関わっています。それだけ人々の行き来が激しく流動的だともいえます。もちろん、長いつきあいになる学習者も多く、帰国のときなどは、ささやかながら、送別会をして、別れを惜しみます。水曜日の夜6:30~8:30の2時間という時間帯と足立区内では交通の便がいいところに立地しているせいか、仕事帰りに通う人も多いです。現在ボランティアが12~3人、学習者が15~6人なので、マンツーマンとグループでの話し合いを組み合わせています。学習外の行事はお花見、お茶会、七福神めぐり、忘年会、区主催の国際まつり参加などがありますが、学習者とボランティアが一緒



に楽しめる機会になっています。

さまざまな国から訪れ、日本の人や言葉になじもうと努力する人々に接して、胸を打たれ、教えられることが多く、また、ボランティア相互の協力の中で、人間関係がつくられ、自然に助け合うようになっていることに気づきます。いつの間にか、それぞれの個性を尊重し、生かしかえる場になっているようです。「来るものは拒まず、去る者は追わず」ですが、集った人々が対等・平等な関係の中で、お互いにほっとできる場になっていればいいなあと思っています。

会 員 団 体 紹 介

Nice to Meet You

日本語検定は平成19年6月に、学習院大学名誉教授で日本を代表する国語学者の故大野晋氏、中央教育審議会副会長の梶田叡一氏、元東京大学総長で政治学者の佐々木毅氏、前国立国語研究所日本語教育基盤情報センター長の柳澤好昭氏、作家では、五木寛之氏、故立松和平氏、重松清氏が参画し、開始しました。

検定試験は6月と11月の年2回実施し、日本語力を、敬語、文法、表記、語彙、言葉の意味、漢字の6領域で総合的に測り、特定分野だけが秀でていても、すべての分野で基準に達していないと合格することができないという「日本語力を総合的に測る検定」です。下

nice to meet you

なぜか、日本語を母国語とする人たちの日本語検定に、外国籍の方々の受検が増えています。

NPO法人日本語検定委員会

萩原 民也

は小学2、3年生を対象にした7級、上は社会人を対象にした1級までの7段階となっており、年間9万人以上が挑戦しています。最近では、日本語教師を目指す方、現役の日本語教師の方、在日外国人の割合も増えていますし、ロンドン、香港、台湾、韓国などからも実施して欲しいという要望があり海外にも受検会場



を設置いたしました。日本人のなかでの自分の日本語力を確認したいということでしょうか。日本語能力試験1級が日本語検定4級にほぼ相当するのではないかと思います。

多文化共生の前に、まずは日本人が自分たちの日本語を正しく運用し、日本文化を理解する心を持たないと、多文化混合になってしまいます。真の多文化共生とは言えません。まずは、自分のたちの日本語を確認してみませんか。日本語教室の支援者の方も学習者の方と一緒に、是非挑戦してみてください。日本語検定の告知・受注活動を委託する代理店も募集しています。

学習者の声

マザーテレサの心を
教室に見る

齋藤マリナ(マケドニア) / みんなの日本語教室(練馬区)

"There are no great things, only small things with great love.
Happy are those." Mother Teresaより



この教室に通って約3年になります。ボランティア精神はとても価値のあることだと思います。

この教室では、日本語を教えるだけでなく、日本のしきたりや習慣など、毎日の暮らしに必要な知識を伝えたり、生活上のさまざまな相談にのったりしてくれます。

外国人は日本の社会に完全に適應することは複雑で難しいことです。間違っただ対応をしてしまうと外国人にも日本人にも共に誤解が生じます。外国人の立場から言うと、日本の社会で外国人が日本に順應す

るための公の支援は少ないと思います。唯一と言ってよい支援団体は外国人の心や悩みを細かい部分までよくわかってくれ信頼関係を大切にしているこのようなボランティア教室だけです。

それぞれの学習者のニーズに合わせて幅広い内容で展開していることが、一般の日本語学校との一番の違いです。

また、私が住んでいる練馬区では日本語教室活動のほかにも日本の文化の紹介会などを開いたり、多彩なイベントを実施して草の根の国際交流に一役買っています。

最後にこの教室を立ち上げて下さった事に心から感謝いたします。

ボランティアの声

兼子真里 / みんなの日本語教室(練馬区)
私たちも『日本』を学ぶ

ある日の日本語教室。
教室に響く学習者の歓声、笑い声、カメラのシャッター音…。

—今日は毎回皆が楽しみにしている日本文化紹介の日。今回のテーマは「端午の節句」。

講師が手際良く兜・こいのぼりを飾り、この日のために作成した手作り資料を配る。この日だけは、初級者から上級者まで数十名が一緒に机を囲む。担当講師による文化紹介のとき、上級者が初級者を手伝い、漢字圏学習者が非漢字圏学習者を助ける。講師による説明だけでなく、学習者同士の交流も兼ねているいつもの光景—

これが開設14年目を迎えた教室のとある一日です。毎年12月は授業時間全部を使い、お楽しみ会を兼ねた文化紹介。このときは、学習者による各国の自慢料理が花

を添えます。これに毎年7月と年3回のミニ文化紹介を加え、合計5回、日本文化を紹介しています。年度末に話し合いを重ね、一年間のテーマを決めますが、長い間行っているので重複することもあり、工夫が求められます。「日本の夏祭り」では皆で浴衣を着たり(浴衣を気に入った学習者は翌週、「先生、私も浴衣を買いました!」と報告)「茶道」では実際にお茶を点てたりしました。皆で抹茶をいただいたとき、参加した学習者の子供が一言…「ニガイ!」。率直な感想に一同大笑い。能の実演、冠婚葬祭や和食のマナー、日本家屋の話…。

列挙できないほど多くのことを行ってきました。学習者に教えるのではなく、私たち講師も改めて自国文化を勉強し、見直す場でもあります。ひとつひとつに苦勞あり、失敗あり、笑いあり、思い出あり…。これら全てが、この教室の財産であり宝になっています。毎週、「基本日本語学習」のみならず、「生活日本語」「検定・漢字対策」「新聞・本読み」など種々のレベルに合わせ授業をしています。この文化紹介も大事な授業のひとつです。

国と国、人と人を繋ぐ架け橋の一部でもお手伝いできたらと思いつつ、毎週活動しています。



●第17回総会で2010年度 TNVN役員・スタッフ・運営委員が決まりました

下記の方々にご協力をお願いします。あわせて会員皆様のご支援・ご協力をお願いします。

代表	梶村 勝利	(早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区)
副代表	岩佐 幹彦	(江戸川平井にほんごサークル/江戸川区)
事務局長兼会計	林川 玲子	(ビバ日本語教室/港区)
会計	床呂 英一	(まちだ地域国際交流協会/町田市)
会計監査	矢崎 理恵	(社会福祉法人さぼと21/品川区)
スタッフ	大木 千冬	(町田日本語の会/町田市)
	小川 伶子	(初歩日本語/練馬区)
	岡田 美奈子	(やさしい日本語/江東区)
	福井 芳野	(小平日本語ボランティアの会/小平市)
	鶴田 環恵	(在宅)
	大滝 敦史	(在宅)
	松川 彩子	(在宅)
運営委員	佐久間 証守	(日本語学習市場/台東区)
	武貞 明子	(東久留米にほんごクラス/東久留米市)
	中山 真理子	(協力会員)
	石川 秀樹	(清瀬国際交流会/清瀬市)

■TNVNは「出前講習会」をしています。

都内や近県の日本語ボランティア教室には日本語ボランティア養成講座や研修講座を実施しているところが多くあります。TNVNでは、そのような折に講習会を出前し、好評をいただいています。

貴団体もご計画をお持ちでしたら事務局にお問合せください。お待ちしております。2008年は10件、2009年は6件の依頼を受け、協力させていただきました。

(担当: 林川)

■ TNVN事務局にお立ち寄り下さい。

事務局を東京ボランティア・市民活動センターで毎週金曜日に関き、役員・スタッフが交代で詰めています。定常の事務処理や日本語学習についての相

談で訪れる方への対応をしています。ご来訪の方と日頃の活動状況や情報交換を交わしています。気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

●Column

❖優しさに会いたくて

2年前の春、小学校に入学したばかりの孫が帰宅するなり、「スペシャルゲストで～す！」と言って部屋に入ってきた。後ろには、彼から貰ったという野の花の小さな花束を持った女の子が。それから毎日一緒に学校へ行ったり遊んだり。映画「小さな恋のメロディー」を見ているようで、とても微笑ましい。仲がよいのは、見る者の心を温かく、また優しくしてくれる。

日本語の会でも、毎回多くの学習者やボランティアに会え、その中に、いつの間にか笑顔になっている自分がある。みんなの優しさと笑顔があるから、ボランティアが続くのだろうか。

O.H



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第1、第3 金曜日/午後2時～4時
第2、第4 金曜日/午後2時～6時

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050
●E-mail：webadmin@tnvn.jp
●URL：http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

◎正会員
町田にほんごスクールネット(町田市)

◎団体協力会員
特活法人 日本語検定委員会

●会員数(2010年5月7日現在)
正会員：82、団体協力会員：4団体
個人協力会員：30名、賛助会員：5団体

●編集/岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野
●レイアウト/鶴田 環恵